

長崎県型イチゴ高設栽培システムにおける品種「さちのか」の基肥施肥量						
<p>[要約] 長崎県型イチゴ高設栽培システムで品種「さちのか」を促成栽培する場合の基肥施肥量は、「とよのか」標準施肥量の75%相当のa当たりN成分で1.3kg施肥することにより、頂果房及び腋果房の安定した収量が得られる。</p>						
総合農林試験場・野菜花き部・野菜科	専門	栽培	対象	果菜類	分類	指導
資料名：						

[背景・ねらい]

長崎県型イチゴ高設栽培においては、ほとんど品種「とよのか」が栽培されているが、冬期の果実着色の改善や栽培農家の負担になっている玉出し作業やジベレリン処理等作業の省力化を図る必要がある。

このため、これらの改善や省力が可能な品種「さちのか」の栽培を試験し、今回、専用基肥の施肥量について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 長崎県型イチゴ高設栽培システムで栽培した品種「さちのか」は、果実着色が良好で果実糖度（ブリックス）も12程度を確保できる（表1）。
2. 栽植本数を700株/aとした場合、基肥施肥量を「とよのか」の標準量の75%相当のa当たりN成分で1.3kgとすることにより、12～1月の頂果房の果形・収量が安定する（表2）。
3. 同様に、2月以降の腋果房の収穫開始時期が遅れず、期間収量が多くなる（表1、2、図1）。
4. これらのことから、長崎県型イチゴ高設栽培システムで「さちのか」を促成栽培する場合の専用基肥は、「とよのか」の標準施肥量の75%相当施肥することで、頂果房及び腋果房の安定した生育・収量が得られる。

[成果の活用面・留意点]

1. 長崎県型イチゴ高設栽培システムを利用した9月中下旬定植とする。
2. 基肥は、高設栽培専用のいちごロングパワー(11-9-8)を用いる。
3. マルチ時に追肥としてス-パ-ロング® 180を3kg/a (N-0.42kg)施肥する。
4. ジベレリン処理は、草勢が維持できれば不要である。

[具体的デ - タ]

表 1 基肥施肥量が生育に及ぼす影響 (a 当たり)

区 名	収穫開始日		果梗枝径 mm	果実糖度(Brix)	
	頂果房	第1次腋果房		先端	中央
標準施肥 50%区 (N-0.88kg)	12/11	2/ 5	3.49	12.3	10.6
標準施肥 75%区 (N-1.32kg)	12/11	2/ 7	3.70	12.9	11.3
標準施肥100%区 (N-1.76kg)	12/11	2/15	3.73	12.7	11.1
有意差			*	N.S	*
l.s.d(5%)			0.20		0.6

注 1) 定植日 : 9月18日、 株間20cm 2条植 (700株 / a)

2) 果梗枝径調査 : 1月22日、糖度調査 : 12/27

3) 標準施肥 : とよのかの基肥標準施肥量

表 2 基肥施肥量が収量に及ぼす影響 (a 当たり)

区 名	総収量			変形果 重量 kg	不受精果 重量 kg	商品1果重	
	12~1月 kg	2~4月 kg	計 kg			12~1月 g/果	2~4月 g/果
標準施肥 50%区	118	335	453	8	0.6	18.0	16.7
標準施肥 75%区	148	337	485	8	0.4	18.4	16.5
標準施肥100%区	133	299	432	14	0	18.9	16.2
有意差	*	*	*			*	N.S
l.s.d(5%)	21	32	42			0.8	

注 1) 収穫期間 : 12月11日 ~ 4月27日までの調査

2) 変形果 : 縦溝または先青果

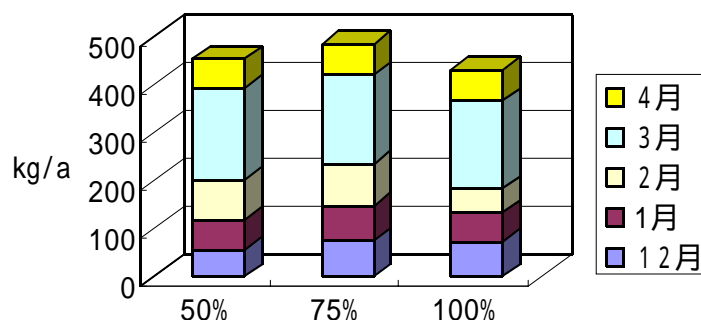


図 1 月別収量推移

[その他]

研究課題名 : 施設野菜の新栽培法の確立と生産安定

予算区分 : 県 単

研究期間 : 平成 1 2 年度 (平成 1 2 ~ 1 6 年)

研究担当者 : 居村正博、藤田晃久